

よさのうみ福祉会 広報誌

きょうと福祉人材
育成認証制度



2018年
5月1日
No.103

福祉よさのうみ

〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を! URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>



2018年度 合同入所式
与謝野エリア

「満開の桜とともに入所式」

リフレかやの里 管理者 藤原さゆり

今年は、寒い冬だったにもかかわらず、桜の開花が例年より早く満開の桜花の下、よさのうみ福祉会与謝野町エリア2018年度合同入所式が行われました。

2018年度は、野田川共同作業所には与謝の海支援学校の卒業生1名と、多機能型生活支援センターむの自立訓練事業「きらり」を利用された1名の合わせて2名を迎え、リフレかやの里には支援学校の卒業生1名を迎えました。

他にも、各事業所に昨年度途中から通われている8名の方の紹介も行いました。

当日は、お忙しい中、丹後保健所山田所長をはじめ、与謝野町福祉課田辺課長、与謝野町社会福祉協議会福田会長、与謝野町民生児童委員協議会阿路川会長、京都府立与謝の海支援学校大田先生、岩屋区山崎区長、夢織りの郷を支える会川勝会長、夢織りの郷家族会西原会長にご出席いただきました。

与謝の海支援学校大田先生からは、新たに社会人としての一步を踏み出した2人の卒業生に、学校時代のエピソードや得意な事などを盛り込んだ励ましのメッセージをいただきました。

与謝野エリア平井代表と、野田川共同作業所自治会幾世会長より歓迎の言葉が送られ、2名の新入所者は「お仕事頑張ります」「ねぎの仕事を頑張ります」と緊張しながらも新社会人としての決意の言葉を述べられました。

花束贈呈では贈る方も贈られる方も少し照れながらも笑顔が弾けました。利用者、職員、来賓、新入所者もみんな大きな声で元気いっぱい歌を歌って、新たな一步をスタートさせました。

児童日中一時支援事業はどんな活動をしているの？

主な活動として、外出・創作・調理・行事(クリスマス会・夏祭り)・

障害児(者)多機能型生活支援センターろむの日中一時支援事業は、京丹後市委託事業として2006年度開設当初より行っています。多様な障害をもつ児童の受け入れをしており、現在は、高等部17名、中学部7名、小学部6名、計30名が登録されています。利用状況としては、平日の放課後時間の利用はもちろん、特に春夏冬の長期休暇と土曜日の利用希望が多く1日の定員数を超えてしまうため、利用の調整をお願いしているのが現状です。



楽しい経験をみんなと「一緒に」児童日中一時支援事業

障害児(者)多機能型生活支援センターろむ

主任 河邊 晴美

交流取り組みを行っています。外出取り組みでは、公園でお弁当を食べた後、ブランコや滑り台、鬼ごっこをして体をたくさん動かしています。レジャーシートの上に寝転がり声を出して笑っている姿に職員も笑顔をもらいます。地域の方が風上げをしている様子を見て、ジャンプして喜ぶ姿もありました。

調理取り組みでは、焼きそば、カレー、ランチプレートなどの昼食作りを週一回行っています。高等部の生徒たちが中心になって野菜を切り、中学部、小学部の児童たちが炒める、材料を入れるなど出来る部分を分担して調理を進めます。『みんなでつくったの、美味しいね』とおかわりをして喜ぶ顔が見られます。おやつ作りも大好きで、ホットケーキやドーナツをみんなでワイワイとテーブルを囲んで作っています。

季節に合わせた創作活動では、みんなで1つの作品を仕上げたり、思い思いに個性ある作品を作っています。節分には鬼の面作り、ひな祭りにはお内裏様とお雛様をちぎり絵で表現しました。作品は事

のうち半分以上が貧困ライン以下の生活を送っていると見られています。しかも驚くことに、枯葉剤を浴びた世代の孫にあたる第3世代のみならず、近年ではひ孫世代の第4世代への影響が確認されるなど、いまだにベトナム社会に深刻な被害を与えている事実の一端を知ったことは、私にとって言葉で言い表せないほどの大きなショックでした。

ベトナム政府の対応

ベトナムは、枯葉剤が原因と考えられる障害者の約3割が未就労の状態にあり、本人ならびに障害者を抱え介護にあたっている家族の多くが貧困にあえいでいる実態にあると言われます。ベトナム政府は、ベトナム枯葉剤被害者協会を設置し、それを支援されていますが、国の経済力が弱く、日本のような障害者支援の法制度や財源措置がなく、多くは手つかずの状態となっています。

ベトナム枯葉剤被害者協会が運営する社会保護センターが既にハノイに設置され、日本政府も昨年度そこにリハビリ機器や職業リハビリ器材等1000万円規模の供与をされています。南部においても、ホーチミン市枯葉剤被害者協会として障害者の総合的な自立支援施設(オレンジ村)建設計画の取り組みを進められており、ホー



業所の玄関に飾っていますので、ろむに來られる際は是非ご覧下さい。

昨年の冬には地域の方との交流としてオカリナサークル『ウィンドウェイ』さんに来ていただきました。児童の好きなドラえもんなどをオカリナの音色に合わせみんなで歌い、ハンドベルも教えて頂きキラキラ星の演奏を経験しました。また、ろむ自立訓練事業「きらり」の仲間との交流では、公開講座や実践報告会を見学に行ったり、一緒にゲームを楽しむなど、ろむならではの交流をしています。

小学部から高等部までの関わりを通して

昨年度は違年齢の児童、生徒がみんなで一緒に過ごすことを意識した取り組みをすすめてきまし



た。その中で、成長とともに自分の思いを伝えることが出来るようになったり、継続した利用の中で、ろむに慣れ気持の安定が図れるようになる児童の姿があります。お弁当を食べること、遊具で遊ぶこと、おやつを食べることなど興味のあることから始め、なかなか送迎車から降りられなかった児童も高等部の生徒が楽しそうに移動をするのを見て、にこにこしながら後を追うようになってきました。

児童日中一時支援事業でも安定した生活が過ごせるように、ご家族や学校・関係機関との連携も大切にし、取り組みを考えていきたいと思います。

ベトナム訪問報告(上)『枯葉剤被害障害者支援事業に係わって』

理事長 青木 一博

初めてのベトナム訪問

さる3月5日から8日の4日間、私は初めてベトナムを訪れました。目的は観光ではなく、ベトナムにおける枯葉剤被害障害者の自立支援事業の調査と協議のため3人での訪問でした。ところで、枯葉剤被害障害者の実態とは？、就労・生活自立を促進するためのオレンジ村構想とは？ 日本での今後の支援の方向性について、法人広報誌を通して3回連載で報告します。

結合双生児として生まれたベトちゃんドクちゃん

読者の皆さんの中に「ベトちゃんドクちゃん」の名前を憶えておられる方は多くおられることでしょう。ベトさんドクさんは、今から37年前の1981年、ダイオキシンの影響ではないかと思える重大な障害(結合双生児)をもちこの世に生を受けました。二人の介護を引き受けたツーズー病院関係者の依頼で、結合双生児が利用できる車椅子を日本から寄贈したことを契機に、病院側の分離手術の要請に日本赤十字社が全面的に

枯葉剤被害障害者とは、今その実態は？

ベトナム枯葉剤被害者協会(VAVA)によれば、ベトナム戦争中の1961年から1971年にかけて、米軍により8千万リットルの有害化学物質が散布され、うち61%が枯葉剤であり、猛毒のダイオキシ含有量は366kgに上ると推定されています。また、WHOによれば、枯葉剤に起因する病気に苦しむベトナム人はこれまでに480万人におよび、うち70万人が子どもたちであるほか、知的発達遅延や視聴覚その他の障害を持つ子供が15万人おり、そ

ベトナム枯葉剤被害障害者支援事業に係る訪問日程

日程	内容
3月5日(月)	関空から空路ハノイへ、日本ベトナム友好大学を見学
3月6日(火)	ベトナム枯葉剤被害者協会全国本部訪問、ベトナム日本大使館梅田全権大使と懇談、ハノイ被害者総合施設を見学、空路ホーチミン市へ
3月7日(水)	ツウーツウー病院平和村、枯葉剤被害者協会ホーチミン市支部訪問、ホーチミン市郊外孤児・障害者職業訓練所、オレンジ村建設予定地視察
3月8日(木)	在ホーチミン日本国総領事館を訪ね細谷主席領事と懇談、市内の障害者共同作業所を訪問交流、深夜空路で関空へ

チミン市から4.7haの土地の無償譲渡を受けられています。このような動きの中で、ベトナム側からオレンジ村建設計画の推進に日本側の支援と協力の依頼があったものです。



みやづ作業所ドラゴンⅡ班は、就労継続B型事業で自閉症、知的障害の利用者が11名所属しています。作業は主に下請け（おみくじ、はし）資源回収リサイクルに日々取り組んでいます。

年度末には毎年「ごろうさん会」の意味で外出取り組みを行います。利用者が行きたいところに自分たちの力で行くことを目標にしています。ドラゴンⅡ班ではリーダー、副リーダーが中心になってみんなの希望を聞きます。「外出取り組みがしたい」「美味しいものを食べたい」と目が輝きますが、どこに行きたいかは想像がつきにくくなかなか意見が出ません。そこで職員も一緒に考えていくと、「僕は船に乗りたい」「他の施設を見学したい」等の意見が出ました。それらの意見をまとめるのもリーダーの仕事です。どうして決めようか悩みましたが、民主的に多数決で一番票の多かった「みんながバスに乗って出かける」ことに決定！

全員ふだんは作業所には送迎で通所しているので公共のバスに乗

つこの誤り」があると講師は指摘されました。

今回の学習会で印象深かったのは、「我がごと・丸ごと」が目指す共生と、きょうされんが目指す共生は違うということです。「我がごと・丸ごと」の目指す共生とは高齢児童、障害のサービスを一体的に行っていくことですが、きょうされんが目指す共生社会とは福祉を必要とする人たちだけでなく福祉を必要としない人たちとも一緒に関わっていき、地域のあらゆる人たちが役割を持ち、支え合いながら、公的な福祉サービスと協働して、自分らしく活躍し暮らすことのできる地域コミュニティです。

今私たちがしなければならぬことは、国が考えている「我がごと・丸ごと」をきちんと理解し今後の運動に活かしていくことです。

障害のある方だけでなく、誰もが当たり前に暮らせる平和な国になるには、今の現状の問題点や矛盾を声に出し、訴えていかなければならないと感じました。



京都で4回目となる大会はサブテーマを「ともに生きる」ともに創る夢ある未来へ 京都から」として43の関係団体で実行委員会をつくり、4千名の参加者で成功させようと取り組んでいます。成功のためには4千名の参加者の内2千名を京都で組織すること、必要費用約6千5百万円を集めなければなりません。京都全体では参加・資金・組織部が中心になって取り組みを推進していきますが、丹後では3名の部員（野田川共同作業所、四つ葉ハウス、あおぞらが推進・集約・ニュース発行を行い目標到達を目指しています）。

丹後ブロックでは各事業所の目標値が提起され、それを受けて各エリア、事業所で依頼先などの検討を行い動きをつくっています。大会参加については次年度予算に目標参加数の費用を計上しました。しかしそれだけでは、交通、宿泊、交流会経費が不足しますので各事業所での工夫が必要となっています。一方、仲間の実行委員会では「やる気満々！」になってきており、

項目	京都全体目標	丹後ブロック目標	よさのうみ目標
協賛金（個人・団体・広告）	15,250,000 円	3,176,000 円	1,919,000 円
大会参加費（京都2,000名）	42,240,000 円	400名分	260名分
助成金	3,000,000 円		
その他	4,276,156 円		
合計	64,766,156 円		



2017年度 北障連学習会

「我がごと・丸ごと」地域共生社会のねらいと私たちの運動

夢織りの郷 いきいき支援員 霜尾 充範

京都北部障害者問題連絡会では2市2町の事業所や団体が集まり、地元行政への要望書提出の取り組みや講師を招いての学習会を行っています。

2月17日に学習会を岩滝、知遊館にて行いました。講師にきょうされん理事長、亀岡福祉会理事長の西村直氏を迎え、『我がごと・丸ごと』地域共生社会のねらいと私たちの運動について」と題して講演していただきました。

学習会は講師の話聞くだけでなく参加者も一緒に考え合える内容でした。「我がごと・丸ごと」のねらいと今後の障害者福祉の行方を探ることで障害のある人々や家族の安心、安全な地域生活を守るために、その生活を支える事業所や地域の仕組みを守るためにどうすればよいかを考えました。国の戦略について、厚労省発表の文書を読み解き、分析しながらその本質を分かりやすく報告していただきました。

「我がごと・丸ごと」には①政策上の誤り、②必要な専門基準の緩和、③地域の自主的な動きでなく、上からの押しつけの「根本的な3

外出取り組み

バスに乗って出かけよう

みやづ作業所 支援員 神谷 志乃

「バスに乗ってどこに行くのか？話し合いは続きます。自分で目的地を決めてバスに乗って行くという発想自体が難しいので、「美味しいものを食べる」というもう一つの目的のためにバイキングに行つてはどう？」と問いかけて見ると、「賛成！美味しいものを食べたい」と行き先が決定しました。実はバイキングに行くのもほとんどの人が初めての経験。初めてのことがばかりの外出取り組みになりました。

これ 王様！



事前にバスの時刻を調べます

当日は残念ながら雨模様。でもバス停では仲間自身が事前に調べ

バイキング スタート！

目の前にはいろいろな料理の数々、「サツマイモの料理がいっぱいあるよね」「あつちには米粉カレー、焼きたてパンあったで」と会話が飛び交います。「エビフライあるかな？」と期待していた仲間もありましたが、唐揚げはありませんでした「バイキングとあってみんないつもより食べ過ぎてしまいましたが、松並木を見ながらの料理は最高でした。食事のマナーもきちんと予行演習してきたのでとてもスマートにできました。利用者1人が「お母さんと僕



「やっぱり自分で選んだのは美味しいなあ」

のパンを買って帰るんだ」と言いながら大好きなメロンパンを買っている顔が輝いていました。

肌寒い1日でしたが、「みんながバスに乗って出かけよう！」は大成功に終わりました。「自分で選んで食べるのが楽しかった」という声や、この経験で自信がつき「今度はヘルパーさんと一緒にバスに乗ってでかけたい」という利用者もありました。これからも班のきずなが深まるような取り組みが行えたらいいと思います。

きょうされん第41回全国大会in京都 参加・資金づくりの取り組みについて

京都で開催される全国大会の 成功のため法人あげて奮闘しましょう！

きょうされん京都支部丹後ブロック長 村上 健一

大会テーマソングの練習が始まった作業所もあります。5月には京都全体でプレ集会、6月には丹後ブロックプレ企画Bの開催と日程も詰まってきました。

過去3回の全国大会を経験する中で、京都のきょうされんは成長・発展してきました。全国的にもその活動量は、ずば抜けて大きなものになっています。

それを支えるために、よさのうみ福祉会は法人上げて奮闘しないといけないと思っています。

項目	京都全体目標	丹後ブロック目標	よさのうみ目標
協賛金（個人・団体・広告）	15,250,000 円	3,176,000 円	1,919,000 円
大会参加費（京都2,000名）	42,240,000 円	400名分	260名分
助成金	3,000,000 円		
その他	4,276,156 円		
合計	64,766,156 円		

『親の心 子知らず』

息子への私達の思い

伊根の里
利用者家族 大門康志

和樹が大学1年の時に高次脳機能障害者になってから、もう5年が過ぎました。大学進学後は、やっと二人の子育てから解放され夫婦でのんびり生活するつもりでしたが、それは1年足らずで終わりました。私達の生活は一変し、遠方の病院や施設への往復、和樹の病状に一喜一憂する日々でした。怪我が治った後も、知識・記憶力・遂行能力の低下が続いています。

怪我によって失ったものは、とてつもなく大きいですが、悪いことばかりではありません。脳の障害は性格まで変えてしまいました。幸いなことに以前より陽気で社交的になっており、家の中が賑やかになりました。失語症があるので会話は上手ではありませんが、一生懸命話してくれます。以前の辛かったことに比べると、今はとても幸せな毎日です。

私達のささやかな楽しみは、毎日、和樹が機嫌よく「行ってくるま〜す!」と作業所に行き、「ただいま〜!」と元気に帰ってきてくれることです。そして、朝や夕方に一緒に散歩しながら、おしゃべりすること、朝食や夕食を三人揃って食べることです。

一つだけ困っていることは、週に数回ある、癲癇発作（嘔吐、嘔気、意識低下）が、治療にも拘わらず何年間も治まらない事です。私達の夢は、早く癲癇発作が治り一人前に働く事ができるようになること、そして一緒に助け合って暮らせる伴侶も見つけ、障害者であっても幸せな人生を送ってほしいと願っています。



4 法人で共に歩み迎えた「やすらの里」5周年

ワークセンター花音
前管理者 平井弘美

与謝野町にある地域共生型福祉施設「やすらの里」は、2013年に開設し、この3月で5周年を迎えました。「高齢者も子どもも障害のある人も、垣根を超えたまちづくりの拠点に」というコンセプトのもと、4つの法人と行政が協力して施設を開設・運営してきました。

その中でワークセンター花音は、他法人からの給食・清掃の委託業務、喫茶運営の役割を受けもち、日常的にたくさんの方とつながりながら働く場として取り組んできました。

「喫茶花音」では、どなたでも気軽に過ごしやすいいただける「地域のほっとスペース」をめざして歩みを進め、口コミなどで近隣の市町村から来店していただき、リピーターや常連の方も増えています。お客さん同士やスタッフとの出会いとつながりが広がり、様々なチャシやイベントのポスターを届けていただくなど地域の情報発信の場ともなっています。

喫茶の店内からは、ディサービスの様子や、子育て支援センターに來られる子どもさんの遊ぶ和や

かな光景が見えて、様々な方が共に過ごしながら、福祉が身近なものとして感じられる場となっています。

近年「地域共生型社会の実現」が謳われていますが、やすらの里では、異なる4つの法人がそれぞれの専門分野を活かしながら、互いの良さと違いを感じつつ理解を深めて事業をすすめていることが大きな特徴です。そのことにより、利用者・職員・地域の方も含めて多様な関わりが日々生まれており、互いに支え合って共に暮らしていくことが実践されているといえます。



高齢者施設の清掃を受け持っています



「どうぞごゆっくり」
喫茶花音は
月～土（日・祝休日）
10:30～17:30
営業しています

童話「北風と太陽」の太陽をめざして

私が福祉の仕事に就いたのは、自宅の近くと与謝の海養護学校があった影響が大きかったように感じます。そんな私が選んだ職業は障害者福祉でした。京都市内の知的障害者通所授産施設に約7年勤務し、縫製や製パン・製菓をしていました。Uターンすることになり、当時の勤務先の施設長の紹介で、よさのうみ福祉会に入職。あつという間に8年が経過し、長男はこの春からピカピカの1年生です。



与謝野町障害者相談支援事業所 結

思っています。成功も失敗も、自分の努力や行動の結果なんですよ。私自身、自分のふがいなさに落ち込むことも多々ありますが、できるだけ「次どうするか」を考えていくようにしています。大成功するような結果ではなくても、小さな成果の積み重ねを相談者さんと一緒に経験させてもらっている中で、暖かな心と冷静な頭を持っています。静かなあゝと感言っています。とは、言つものの、家で火するのこともしばしば。そんな時は子供と一緒に（子供より早く）寝て切り替えています！

次回は

峰山共同作業所
主任 引野充朗です。



ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。
2018年2月4日～2018年3月30日
（順不同・敬称略）

梶谷恵吾	狩野しのぶ
松本敏子	中西英明
小長谷たまゑ	坂根宏志
水谷真智子	青木一博
坂野忠雄	岩崎 充
辻 美江	品川恵子
八木幸子	石野 拓
谷垣吉信	浦島久美子
向仲真紀	西垣三衛子
菅谷千恵子	木成奈緒子
杉本実信	引野充朗
小巻真希	市田博也
青木一博	千原由美子
沖上みゆき	村上健一
長島 稔	佐々木明雅
馬谷啓子	山上正博
黒田美由紀	

一念寺仏教婦人会
岩滝称名寺仏教婦人会
峰山共同作業所 みねやま作業所
ゆうゆう作業所 ろむを支える会
国際ソロプチミスト宮津
夢織りの郷家族会 代表 西原 俊朗
その他匿名でもたくさんのご寄付をいただいております。

編集後記

進級、入学、就職など新しい環境に慣れ楽しんでる人や、まだ慣れない環境で戸惑っている人も多いかと思えます。今年、我が息子も中学生。この子が生まれて間もなく、心臓に異常があることがわかり京都府立医科大学病院に搬送。主治医から、診断の結果、心疾患だと告げられ「生後0カ月で1回目、その後2回手術を受けないといけない」と言われ、思いもよらない診断名と生後0カ月で手術を受けることに衝撃をうけ涙が止まらなかったあの日から12年。小さな身体で予定通り3回手術を受け、今では元気に過ごすごことが出来ています。今日までたくさんの人たちに励まされ支えられてきました。息子も温かい友だちや理解ある先生に出会い楽しい学校生活を送ることができ感謝でいっぱいです。あの頃、想像できなかった「今」。これからも一日一日を大切に生きてほしいと願います。私も、改めて一日一日を大切に生きていこうと思います。（な）

作業所と共に 歩んできたレジェンド達

Vol.1

よさのうみ福祉会の各事業所には、作業所と共に歩んできた仲間が数多くおられます。今回はその中から3名の方に登場していただきました。

ぼくのしたいこと・願い



夢織の郷 いきいき
浅野 重樹

わたしらしく輝きたい



峰山共同作業所
高橋 和枝

念願の海外旅行実現！



みやづ作業所
大橋 英行

僕が今思っていることは、仕事がつづけられるだけつづけたいです。そして、旅行に気の合った仲間と行ってみたいです。大阪におった時は、バスにのって行けたけどここは交通機関がないので行きたくても行けないんです。ヘルパーさんも施設にいてたら使えないし不便です。そして、給料のことですけど今の給料ではとてもやって行けません。それと年金のことですけどだんだんと減っていつていけるし、僕たち障害者は生活していけません。もっともうかる仕事がいいます。それには難しい仕事をこなさなければならぬので難しいかなあと思います。

最後に訴えたいことは、これもお金がかかることですけど出来れば「いきいき」にマイクロバスみたいな車がほしいなあと思います。そして、つむぎ（通所事業所）にかりなくなくてもすむし、自由に行けると思っています。以上で私のしたいこと、願いを終わります。

わたしは、峰山共同作業所が開所した昭和50年の6月から通所をはじめ、仲間7人、職員2人の計9人でスタートしました。陶芸作業や紋紙ほどこぎ、梨の袋づくりや資源回収など、いろんな仕事をしました。洗濯バサミを苦労しながら仕上げたり、部屋中ウエスだらけにして仕事をしたことをよく覚えていいます。

また、くるみ会という自治会をつくって初代の会長になりました。遠足に行つて木津のチューリップを観たり、キャンプに行つたのもよい思い出です。いろんな集会に行つて発表してたくさん経験をしました。

その後、企業に就職し約20年間勤めました。体もしんどくなったので退職し、また作業所に通所する事になりました。今は「ちりめんピンチ」作りをがんばっています。大好きなピンク色のちりめんの端切れをたくさん使つて、わたしらしいちりめんピンチを作っています。これからも自分のペースで通所して、仲間や職員と楽しく過ごしたいと思っています。

与謝の海養護学校を卒業して1983年4月から宮津共同作業所にいきました。みやづ作業所となつてからもずっと通っています。印刷作業やジャコ袋、きょうされん布巾づくりなどいろんな作業をしてきました。今は生活介護どんぐり班で名刺や物品販売のパソコン入力や弁当箱の下づけ作業をしています。10年ほど前からは宮津にあるグループホームで暮しています。夢は「海外旅行」で長い間、台湾に行き、美味しいものを食べたいと思いつてきました。夢がかない、去年の12月にヘルパーに同行してもらい三泊四日で台湾旅行に行つてきました。気になった店にふらつと入つたり、屋台で美味しいようなものを食べたりしてとても楽しい旅行でした。映画「千と千尋の神隠し」のモデルとなつたと言われている「九份」の街はとても印象に残っています。また、海外旅行に行きたいと思っています。